



平成30年11月2日

各位

会社名 株式会社 セキド  
 代表者名 代表取締役社長 関戸 正実  
 (コード番号 9878 東証第二部)  
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭  
 (TEL. 03-6300-6335)

### 特別損失の計上及び平成31年3月期第2四半期累計期間の 業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成31年3月期第2四半期累計期間において、特別損失を計上することとなりましたのでお知らせするとともに、平成30年5月7日に公表した平成31年3月期第2四半期累計期間の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の計上について

当第2四半期会計期間末において、当社が所有する投資有価証券の一部の銘柄に著しい時価の下落が認められたため、投資有価証券評価損15百万円を計上いたしました。

#### 2. 平成31年3月期第2四半期(累計)個別業績予想値と実績値との差異

(平成30年3月21日～平成30年9月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,773	△29	△49	△59	△35.39
実績値(B)	3,357	△101	△118	△140	△84.25
増減額(B-A)	△416	△72	△69	△81	
増減率(%)	△11.0	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	3,834	△41	△61	△78	△53.98

(注) 当社は、平成30年9月21日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### 3. 差異の理由

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、米国の保護貿易政策の影響もあり、輸出部門の改善が一服し、為替の円安傾向の影響やガソリン価格の上昇、生鮮食品や公共料金などの値上げの動きもあり、個人消費の回復、改善傾向も一服する状況で推移いたしました。

当業界におきましては、猛暑に度重なる台風の接近や震災など自然災害の影響もあり、総じて、消費マインドは慎重といえる状況でありました。

このような環境下、当社は、主力事業である実店舗での新品商品販売事業の強化、成長事業であるEC事業の拡大、新規事業であるリユース事業への投資をテーマとする成長戦略に取り組んでまいりましたが、主力の既存実店舗での計画未達により売上高は3,357百万円(計画比11.0%減)となりました。また、売上高未達分の売上総利益減少が響き営業損失は101百万円(計画比△72百万円)、経常損失は118百万円(計画比△69百万円)、特別損失として投資有価証券評価損15百万円を計上したことにより四半期純損失は140百万円(計画比△81百万円)となりました。

通期の業績予想につきましては修正しておりません。当社の業績は年末・年始が最需要期であり、計画外の施策として、新規店舗1店舗を出店するほか、既存店舗が入店するショッピングセンターでの催事開催等を最需要期に向けて展開すること、お客様の利便性を高めるスマホ向けアプリを導入することなどにより、売上高の挽回に努めてまいります。また、引続きリユース事業、EC事業（インターネットショップ）の強化拡大、実店舗の新品販売事業での「中低価格帯商品の展開強化」、「主要ブランドの集中仕入・集中販売」に取組み、通期業績の達成に向けて取組んでまいります。

※本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上